

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

演習への積極的な参加と自らの行動を振り返ることに重点が置かれており、リフレクションシートの配点が高い。

欠席するとその回の点数が0点となるので注意すること。

《担当者名》○吉田晋 本家寿洋 田村至 川添恵理子 巻康弘 武田涼子 澤田篤史 大須田祐亮 佐藤一成 岩瀬義昭
鎌田樹寛 坂上哲可 今井智子 黒崎芳子 前田秀彦 木浪智佳子 内ヶ島伸也 山田拓 大友芳恵 近藤尚也
佐々木敏明

【概要】

医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実践についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学部学科をこえたグループワーク演習を通じ、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。

【学習目標】

一般目標

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

行動目標

1. 多職種連携において患者、利用者を中心とした視点が持てる。
2. 多職種連携における各専門職の教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. 演習を通してグループ内で信頼関係を築ける。
4. 多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 演習での議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを内省し、考えや価値観を再構築できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1) 2	多職種連携の必要性	多職種連携のかたちと各職種の役割を理解し、多職種連携が求められる背景、その重要性について学ぶ。	全担当教員
3) 4	多職種連携に必要な技術1	カンファレンス等、多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めていくためのファシリテーターの役割について学ぶ。	全担当教員
5) 6	多職種連携に必要な技術2	多職種が連携することで生じるコンフリクトに対するマネジメント方法について学ぶ。	全担当教員
7) 8	カンファレンスの進め方	演習を通じて身につけたディスカッションのスキルを利用し、擬似カンファレンスを通じて議論の進め方を体験する。	全担当教員
9	情報の収集と整理	各領域のアセスメント、社会背景などの情報を整理し、ICFにしたがって問題点を分類する方法について、演習を通じて学ぶ。	全担当教員
10) 11	多職種連携演習	各職種の視点で問題点を整理し、他職種に伝える方法について、現職の専門職を交え演習を通じて学ぶ。 特別講師：星野由利子、上田学、下倉賢士	全担当教員
12)	多職種連携演習	各職種から出された問題点を共有し、目標をチーム内で統一するプロセスについて現職の専門職を交え演習	全担当教員

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
13		を通して学ぶ。 特別講師：星野由利子、上田学、下倉賢士	
14 { 15	多職種連携演習	チームでまとめた問題点を解決し、目標を達成するために、それぞれの職種が担う役割について整理し、介入方法を立案するプロセスについて現職の専門職を交え演習を通して学ぶ。 特別講師：星野由利子、上田学、下倉賢士	全担当教員

【評価方法】

小テスト20%、演習後のリフレクションシート80%

【備 考】

教科書：篠田道子 著 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 2011年

参考書：埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ-利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 2009年
北島政樹 著 「医療福祉をつなぐ関連職種連携-講義と実習にもとづく学習のすべて」 南江堂 2013年

その他： 隔週 限2コマ授業を原則とし、開講日は別途指示する。

【学習の準備】

事前課題の視聴をして演習に臨むこと（1時間）。

基本的に学科をまたいだグループで行動する。演習の準備等はグループで助け合いながら行うこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP2）近代医療は“チーム医療”がとても重要です。各医療職の専門性はますます進化していきますので、今後さらに“チーム医療力”が病院・施設などの“臨床力”として特に重要になります。自分の職種と他の職種のそれぞれの役割と専門性をきちんと理解し、患者と家族をチーム医療力でしっかりとサポートできる能力を身につけます。

【実務経験】

吉田晋(理学療法士) 本家寿洋(作業療法士) 田村至(言語聴覚士) 川添恵理子(看護師) 巻康弘(社会福祉士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での各領域での臨床経験を活かし、リハビリテーションにおける多職種連携について講義を行う。